神戸学院大学授業アンケート報告書

2024 年度前期

神戸学院大学

全学教育推進グループ

1.神戸学院大学授業アンケートについて

本学では、教員の授業方法の改善および教育力向上を目的とし、「授業アンケート」を実施しております。アンケート集計結果については、各学部等に返却するとともに、アセスメント・プラン（ https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/assessment.html ）「授業科目レベル」で活用しております。また、学部・研究科・センター別の集計結果を公表しております。

2.授業アンケートの実施方法と内容

2.1 実施授業科目および対象者

授業科目：各学部等が選定した科目（実施科目数：1,470）

対象者：上記授業を履修している学生（延べ人数。対象者数：81,983 名）

2.2 実施日程

総合リハビリテーション学部・栄養学部・薬学部：2024 年 6 月 3 日（月）9 時 00 分～2024 年 8 月 9 日（金）23 時 59 分

法学部・経済学部・経営学部・人文学部・心理学部・現代社会学部・グローバル・コミュニケーション学部・共通教育センター・スポーツサイエンス・ユニット：2024 年 7 月1日（月）9 時 00 分～2024 年 8 月 9 日（金）23 時 59 分

2.3 実施方法

実施期間の該当科目授業時間中に原則的に実施。インターネットを通じて Web システムより回答。

2.4 設問の概要

全学部全科目共通の設問 10 問（選択式、4件法）と自由記述（別紙参照）。経営学部・薬学部については独自の設問を設けている。

2.5 教員へのアンケート結果提供方法

インターネットを通じて Web システムより結果を確認。

2.6 学生へのフィードバック

科目ごとに各教員がアンケート結果を確認の上、Web システムよりコメント欄に入力。学生は Web システムより回答した科目の集計結果および教員コメントを参照可能。

3.授業アンケートの結果

別紙「2024年度前期授業アンケート（学士課程集計）」参照。

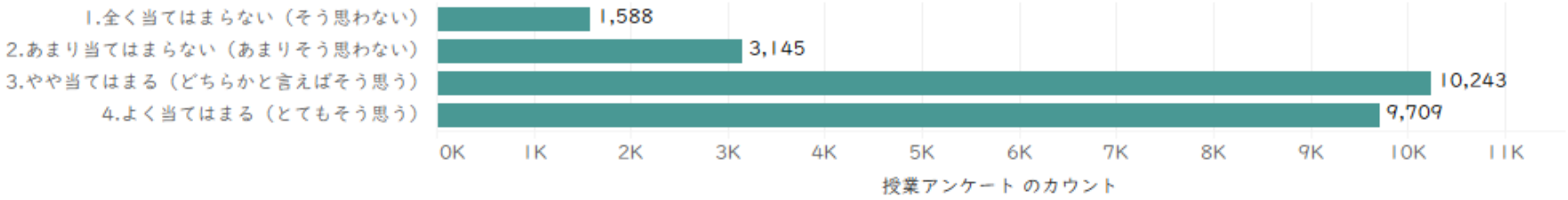
2024年度前期授業アンケート（学士課程集計）

2024年度前期授業アンケート

設問1 あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか

全学の平均　3.14

	回答数	回答率
1.全く当てはまらない（そう思わない）	1,588	6.4%
2.あまり当てはまらない（あまりそう思わない）	3,145	12.7%
3.やや当てはまる（どちらかと言えばそう思う）	10,243	41.5%
4.よく当てはまる（とてもそう思う）	9,709	39.3%

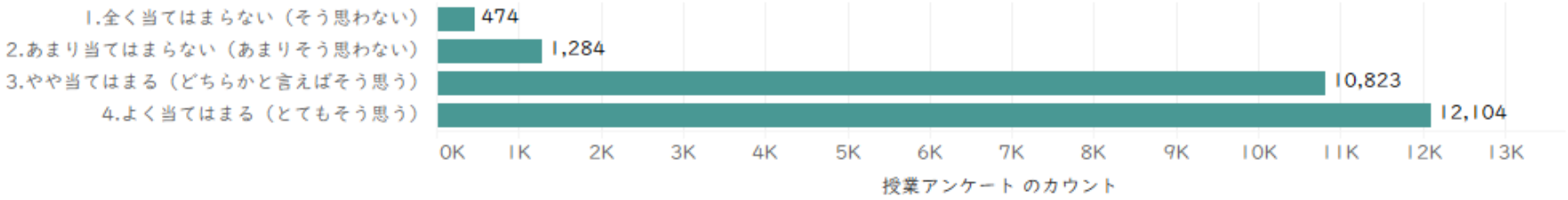


2024年度前期授業アンケート

設問2 あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか

全学の平均　3.40

	回答数	回答率
1.全く当てはまらない（そう思わない）	474	1.9%
2.あまり当てはまらない（あまりそう思わない）	1,284	5.2%
3.やや当てはまる（どちらかと言えばそう思う）	10,823	43.8%
4.よく当てはまる（とてもそう思う）	12,104	49.0%

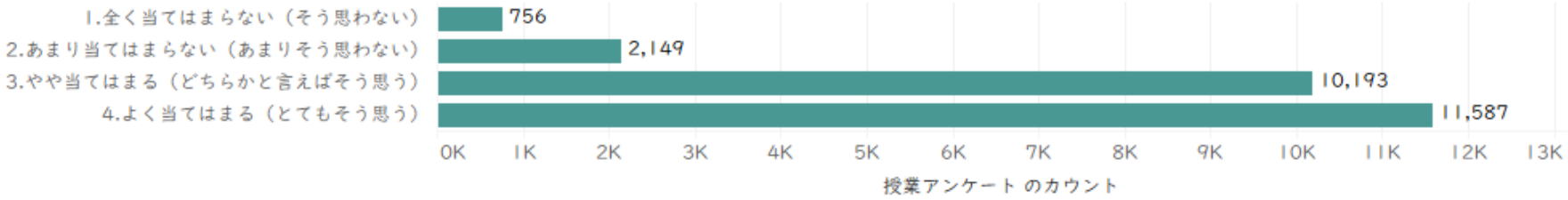


2024年度前期授業アンケート

設問3 あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか

全学の平均　3.32

	回答数	回答率
1.全く当てはまらない（そう思わない）	756	3.1%
2.あまり当てはまらない（あまりそう思わない）	2,149	8.7%
3.やや当てはまる（どちらかと言えばそう思う）	10,193	41.3%
4.よく当てはまる（とてもそう思う）	11,587	46.9%

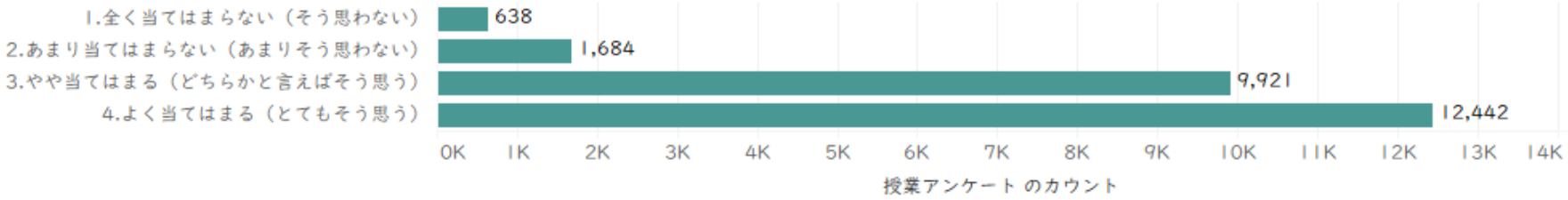


2024年度前期授業アンケート

設問4 あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか

全学の平均　3.38

	回答数	回答率
1.全く当てはまらない（そう思わない）	638	2.6%
2.あまり当てはまらない（あまりそう思わない）	1,684	6.8%
3.やや当てはまる（どちらかと言えばそう思う）	9,921	40.2%
4.よく当てはまる（とてもそう思う）	12,442	50.4%

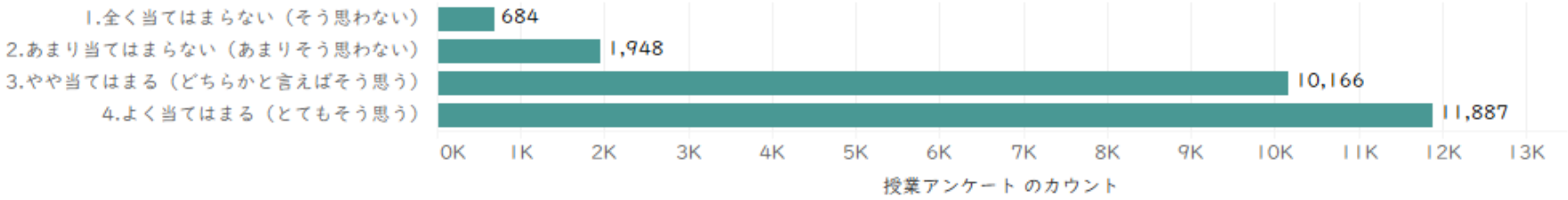


2024年度前期授業アンケート

設問5 あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫をしていると感じましたか

全学の平均　3.35

	回答数	回答率
1.全く当てはまらない（そう思わない）	684	2.8%
2.あまり当てはまらない（あまりそう思わない）	1,948	7.9%
3.やや当てはまる（どちらかと言えばそう思う）	10,166	41.2%
4.よく当てはまる（とてもそう思う）	11,887	48.2%

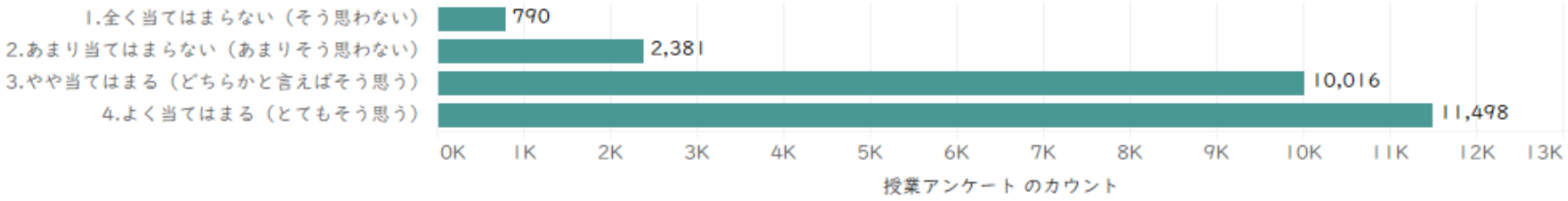


2024年度前期授業アンケート

設問6 あなたは、教員が学生の理解度を把握しようと努めていると感じましたか

全学の平均　3.31

	回答数	回答率
1.全く当てはまらない（そう思わない）	790	3.2%
2.あまり当てはまらない（あまりそう思わない）	2,381	9.6%
3.やや当てはまる（どちらかと言えばそう思う）	10,016	40.6%
4.よく当てはまる（とてもそう思う）	11,498	46.6%

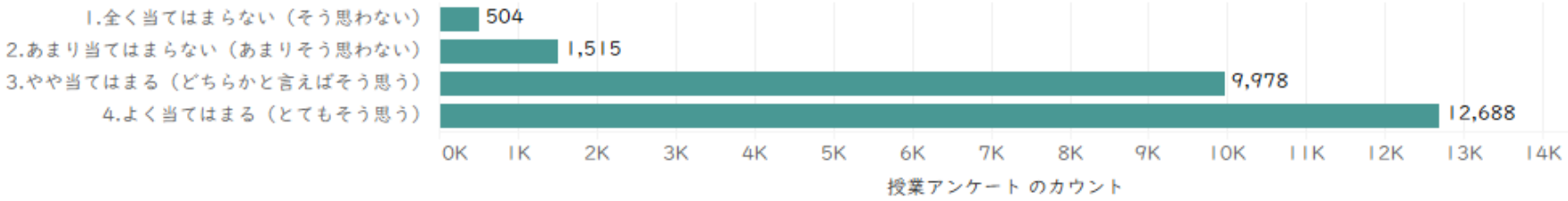


2024年度前期授業アンケート

設問7 あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることはできましたか

全学の平均　3.41

	回答数	回答率
1.全く当てはまらない（そう思わない）	504	2.0%
2.あまり当てはまらない（あまりそう思わない）	1,515	6.1%
3.やや当てはまる（どちらかと言えばそう思う）	9,978	40.4%
4.よく当てはまる（とてもそう思う）	12,688	51.4%

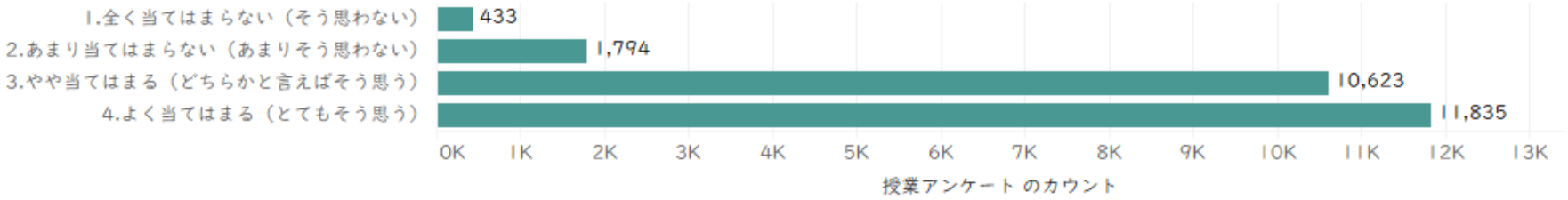


2024年度前期授業アンケート

設問8 あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか

全学の平均　3.37

	回答数	回答率
1.全く当てはまらない（そう思わない）	433	1.8%
2.あまり当てはまらない（あまりそう思わない）	1,794	7.3%
3.やや当てはまる（どちらかと言えばそう思う）	10,623	43.0%
4.よく当てはまる（とてもそう思う）	11,835	47.9%

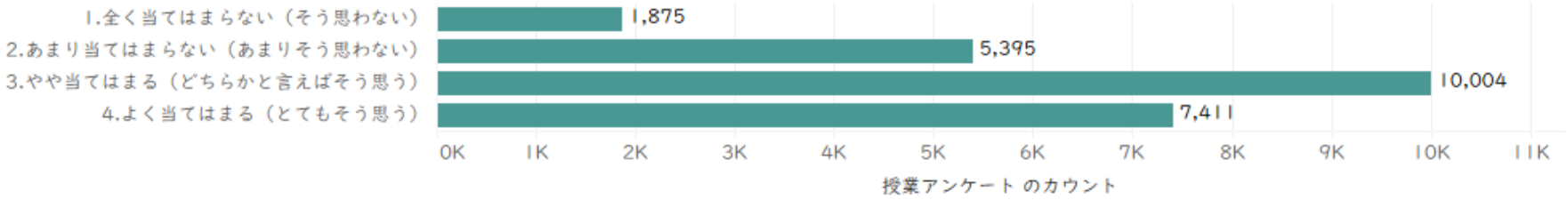


2024年度前期授業アンケート

設問9 あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか

全学の平均　2.93

	回答数	回答率
1.全く当てはまらない（そう思わない）	1,875	7.6%
2.あまり当てはまらない（あまりそう思わない）	5,395	21.9%
3.やや当てはまる（どちらかと言えばそう思う）	10,004	40.5%
4.よく当てはまる（とてもそう思う）	7,411	30.0%

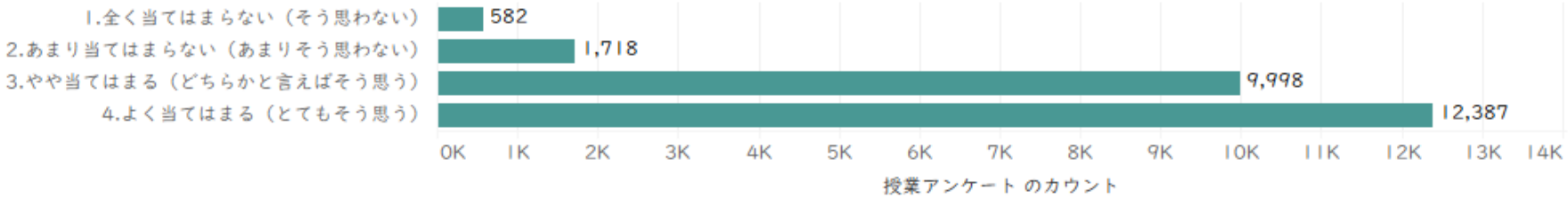


2024年度前期授業アンケート

設問10 あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか

全学の平均　3.39

	回答数	回答率
1.全く当てはまらない（そう思わない）	582	2.4%
2.あまり当てはまらない（あまりそう思わない）	1,718	7.0%
3.やや当てはまる（どちらかと言えばそう思う）	9,998	40.5%
4.よく当てはまる（とてもそう思う）	12,387	50.2%



2024 年度前期授業アンケート報告書

法学部

【実施期間】2024 年 7 月 1 日～2024 年 8 月 9 日
【実施科目数】 65
【回答率】18.8%

【結果の概要・分析】

法学部における 2024 年度前期授業アンケートの実施状況について、実施科目数は 65 科目、当該実施科目における履修者数は 7,217 名、うち回答者数は 1,357 名となっており、回答率は 18.8%であった。大学全体での回答率は 30.1%であり、それと比べると法学部では回答者数が少なかったといわざるを得ない。今後、アンケート実施期間内の授業時等において、教員から学生に対して、より一層アンケート実施の周知を図るとともに、アンケートへの回答協力を強く求めていく必要があるであろう。

他方、紙媒体でアンケートを実施していた時と比べて、法学部においては回答率が大幅に減っているようにも思われる。QR コードを用いて容易く回答できる方式であるにもかかわらず、回答率が減っているとしたならば、旧来の紙媒体に戻すことも視野に入れてアンケートの回答方法自体を再検討する必要性もあるかもしれない。ただ、栄養学部のように回答率 78.3%とかなり高い数値を出しておられる学部もあり（実施科目数は 22 である点には留意）、なぜそのような高い回答率になっているのかをまずは当該学部に伺ってみることも必要かもしれない。

また、アンケートの設問 11 自由記述欄における意見等では、授業が工夫されていて分りやすいという肯定的な意見等も多数あるものの、逆に、説明が難しすぎる、私語をする学生への注意が足りない、黒板の字が小さすぎて見づらかった、オンデマンドの授業で音声が聞き取れない部分があった等の意見や、レジュメ内容の不十分さを指摘する意見等、改善を求める声も複数出されていた。回答率自体が低いうえに、自由記述欄に意見や感想等を記した学生はさらに少ないため、その点は勘案してこれらの意見を捉えていかないといけないであろうが、学生の真摯な意見が記されていて、改善を求められているような声に対してはしっかりと耳を傾けていかなければならない。

【授業改善への活用方法】

まずはこの秋学期以降、アンケートの回答率がもっと上がるように、上述したとおりさらなる工夫をし、また学生への協力を強く求めていかなければならない。

そのうえで、次には各科目に表れているアンケート結果や自由記述欄の意見等を、各担当教員が真摯に受け止め、とりわけ改善を求められている点については、その原因を教員各自でも改めて検討し、必要な場合には今後改善するように努めていかなければならない。

各教員が個々に検討・対応していくだけでよいかも要検討であると思われるが、例えば、学部の FD 等において、アンケート結果の活用方法を議論し、具体的に一定時期のアンケート結果に基づき、学生から出された意見等に関して学部教員全員で共に検討したうえで、改善策を相互に提案していく等の方法により、よりよい対応を考えていくことも一つの方法であろう。

2024 年度前期授業アンケート報告書

経済学部

【実施期間】2024 年 7 月 1 日～2024 年 8 月 9 日
【実施科目数】32
【回答率】27.7%

【結果の概要・分析】

◆アンケートの対象科目について

授業アンケートが現在のように 30%程度抽出した科目を対象とするようになって以来，経済学部では基幹科目とリテラシー科目を授業アンケートの対象としていたが，ディプロマ・ポリシーもしくはカリキュラムチェックの観点から，2023 年度後期の授業アンケートにおいてコース科目の一部を対象に加えた．一方で，リテラシー科目（データサイエンス科目）の人数制限がある少人数科目の一部を対象からはずした．さらに，2024 年度前期からは，専任教員は 1 年に 1 度は授業アンケートの対象とすることとなったため，関連科目にも対象を広げた．

対象の科目数が 32 と他学部と比較すると少ない方であるが，これは経済学部の基幹・リテラシー・コース科目のほとんどが「4 単位もの」であることも一因である．

◆回答率の状況について

表 1 は過去3年半の経済学部の授業アンケートへの回答率の状況をまとめたものである．授業アンケートの対象科目の履修登録者数は前期の方が後期より多い．これは，前期と後期で対象科目やクラス数が異なることや，4 年次生が後期には必要最低限しか履修登録を行わない傾向があることが要因である．

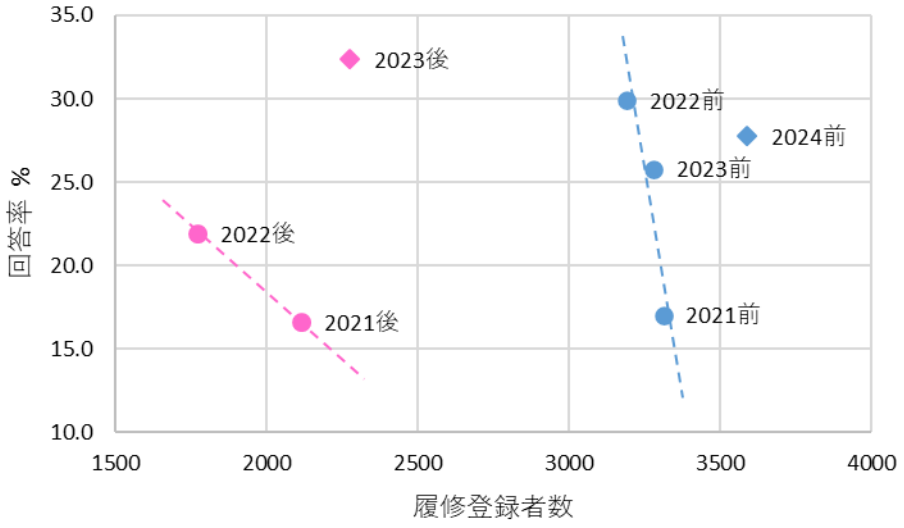
表 1 授業アンケート回答状況（経済学部）

	前期			後期		
	回答者数	履修登録者数	回答率	回答者数	履修登録者数	回答率
2021 年度	563	3,311	17.0	350	2,116	16.5
2022 年度	954	3,191	29.9	388	1,775	21.9
2023 年度	846	3,280	25.8	737	2,279	32.3
2024 年度	994	3,588	27.7			

出所：「授業アンケートの集計結果」より作成．2023 年 11 月 11 日及び 2024 年 10 月 2 日アクセス．<https://www.kobegakuin.ac.jp/iphe/enquete/>

図 1 は授業アンケート対象科目の履修登録者数と回答率の散布図である．サンプル数が少ないので統計分析はできないが，アンケート対象科目が概ね同じであった 2021 年度前期から 2023 年度前期までは前期及び後期のそれぞれで履修登録者数と回答率の反比例関係が見られる．ただし，2023 年度後期と 2024 年前期は，それぞれ前期と後期の最大の履修登録者数であるが，回答率は高めとなった．その理由としては，対象科目の変更以外に，授業アンケートの周知方法の変更によるところが大きいと考えられる．2023 年度前期までは，授業アンケート対象ではない科目である「演習」の時間にアンケートへの協力依頼のチラシを学生に配布していたが，2023 年度後期からは，複数のアンケート対象科目の授業時間中に同様のチラシを配布するようにした．周知方法の変更が回答率の改善につながったと判断できよう．

図 1　履修登録者数と回答率（経済学部）



出所：「授業アンケートの集計結果」より作成．2023 年 11 月 11 日及び 2024 年 10 月 2 日アクセス．<https://www.kobegakuin.ac.jp/iphe/enquete/>

◆アンケート結果について

表 2 は 2024 年度前期の授業アンケートにおける設問への回答の結果を経済学部と全学で比較したものである．アンケートへの回答方法は 4 段階のリッカートスケールである．経済学部と全学の数字を比較すると，経済学部での設問 1 に対する回答ポイントは全学平均を上回るものの，他の設問では下回る．特に，設問 3，6，7 については全学平均から 0.2%ポイント以上下回っている．もっとも，経済学部の授業アンケートの対象は基幹科目を中心に理論的な科目を多く含む構成となっており，実践力基礎及び育成科目は含まれておらず，そのことがアンケート結果に影響を及ぼしているとも考えられる．経済学部の学生には「経済学の基礎理論」を理解してもらえるよう一層の教員の工夫が必要である．

表 2　設問への回答の結果（2024 年度前期・経済学部）

設問	経済	全学
1 あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか	3.22	3.14
2 あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか	3.31	3.40
3 あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか	3.11	3.32
4 あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか	3.20	3.38
5 あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫をしていると感じましたか	3.17	3.35
6 あなたは、教員が学生の理解度を把握しようと努めていると感じましたか	3.11	3.31
7 あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることはできましたか	3.21	3.41
8 あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか	3.25	3.37
9 あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか	2.85	2.93
10 あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか	3.20	3.39

【授業改善への活用方法】

9 月の教授会において，2024 年度前期の授業アンケートについて回答率や設問への回答状況を報告した．特に，設問 3，5，6 などについて心がけて頂くよう依頼した．

2024 年度前期授業アンケート報告書

経営学部

【実施期間】2024 年 7 月 1 日～2024 年 8 月 9 日
【実施科目数】104
【回答率】20.6%

【結果の概要・分析】

概要であるが、回答率が 9522 人のうち 1961 人（20.6%）という割合は全体として少ない数値であった。アンケートへの参加率 UP が今後の課題となる。

内容であるが、4 点尺度で問う各質問項目については、設問 9（あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか）は 2.81 という結果となった。設問 9（あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか）以外は平均 3.0 点以上なので、概ね学生からはポジティブな評価を得られていると推察できる。一方、設問 9 の結果から、単純に宿題という形ではなく、授業時間外の予習・復習のための学習を増やすような工夫が必要となると考えられる。

さて、自由記述に関しては匿名であるということもあり、記載内容の信頼性の問題が排除できないことと、科目によって実施形式がかなり異なる（人数や進め方ため、）ここで何らかの全体傾向を判断することは難しいが、授業内容そのものだけでなく、集中して授業に取り組むことができる環境整備・維持についての満足（あるいは不満足）がそれなりに挙がっていることは、今後の授業改善における一つの参考となると考えている。

【授業改善への活用方法】

前述したように、設問 9 の 2.81 以外は 3.0 を超えている結果となった。設問 2（あなた、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか）は 3.45、設問 11（あなたは、授業で指定された課題（予習・復習以外）について授業時間外学習を行いましたか）は 3.60 と共に高い数値となった。前者は各教員がシラバスを遵守していることを意味しており、真摯に授業に向き合う姿勢であると評価ができる。後者は自発的な学生の態度がうかがえて好ましい結果である。このように授業時間外学習への誘いが成功していることであると解釈できる。この2項目については今後も路線変更なく取り組みをすすめたい。設問 6（あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫をしていると感じたか）は 3.19 となり、3.0 を超えているとはいえ、数値が他の設問よりも低いので「理解するための工夫」については今後、各教員の工夫が期待されるところである。

さて、自由記述欄を記載する学生が一定程度存在すること自体は、授業に対する関心度が高い証拠でもあるので、こうした意見に対して各教員が学生に何らかの形でフィードバックすることは必要であろう。また、必ずしも期末評価に直結しない自主的な学習を促すための興味・関心をより一層も多せられるような授業内容にしていく各教員の工夫が必要となると考えている。

2024 年度前期授業アンケート報告書

人文学部

【実施期間】2024 年 7 月 1 日～2024 年 8 月 9 日
【実施科目数】70
【回答率】24.0%

【結果の概要・分析】
人文学部の前期授業アンケートの回答者数はのべ 1065 名、回答率は 24.0%であった。設問1の結果より、人文学部の学生はシラバスを事前によく読んで講義を選択している学生が多いことがうかがえる。教員に対する要望として、設問3（説明がわかりやすいか）と設問6（学生の理解度を把握できているか）にて批判的な評価が目立った。一方で設問9（授業時間外学習に取り組んだか）については、約4割の学生が「全く当てはまらない」「あまり当てはまらない」と答えており、全学平均も下回ることから、この点には工夫の必要があると考えられる。人文学部の学問範囲が広いことは、学部の特長であると共に、幾つかの設問での批判的反応の一因となっているものと考えられる。
設問ごとの結果は以下の通りである。
・設問1（あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか）
学部平均 3.25 で全学平均 3.14 を上回る。回答者の 86%が「やや当てはまる」、「よく当てはまる」と回答しており、大半の学生は履修登録前にシラバスを読んでいるとみられる。
・設問2（あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか）学部平均 3.36 で全学平均 3.40 をやや下回り、9%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答している。
・設問3（あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか）
学部平均 3.28 で全学平均 3.32 をやや下回る。13%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答しているが、これは前述の学問範囲が広いことも一因と考えられる。
・設問4（あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか）
学部平均 3.33 で全学平均 3.38 をやや下回る。10%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答しており、学習にふさわしい環境の提供については幾分不満を感じさせている。
・設問5（あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫をしていると感じましたか）
学部平均 3.31 で全学平均 3.35 を下回る。12%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答している。学問範囲が広いだけに、学生の理解に向けた教員の工夫が必要であると考えられる。
・設問6（あなたは、教員が学生の理解度を把握しようと努めていると感じましたか）
学部平均 3.23 で全学平均 3.31 を下回る。「全く当てはまらない」と回答した人数はこの設問が最も多く、50人であった。不満のもっとも現れた点であり、改善が必要である。
・設問7（あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることはできましたか）
学部平均 3.41 で全学平均 3.41 と同等である。91%が「よく当てはまる」、「やや当てはまる」と回答をしており、多くの学生が授業を通じて新たな知見を獲得できていると考えられる。人文学部の教育理念が、学生たちに伝わっていることの証左と考えられる。
・設問8（あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか）
学部平均 3.31 で全学平均 3.37 を下回る。89%が「よく当てはまる」、「やや当てはまる」と回

答しており、大半の学生が意欲的に取り組んでいる。 ・設問9（あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか） 学部平均 2.70 で全学平均 2.93 を下回る。40%の学生が「全く当てはまらない」、「あまり当てはまらない」と回答しており、他の設問に比べて平均値が低いため、学生への指導に工夫の余地があるものと考えられる。 ・設問10（あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか） 学部平均 3.23 で全学平均 3.39 を下回る。ただし、この設問で問われている将来性という概念にはやや曖昧な点が認められるので、具体的な評価は避ける。 ・自由記述欄について 非常にポジティブで教員に感謝を伝えたいコメントと、改善要望を伝えたいコメントとに分かれる。改善要望は具体的な説明が多く、学生がどのような講義を望んでいるのかわかる（内容より、授業の進め方やノートを取るための時間配分等の要望が多い）ことから、担当教員もすぐに対応できるケースが多いと考えられる。
【授業改善への活用方法】 教員は個別に授業アンケートの結果を確認し、次年度以降の授業改善に活用しているほか、可能な場合はフィードバック（自由記述欄への返答）等を行っている。

2024 年度前期授業アンケート報告書

心理学部

【実施期間】2024 年 7 月 1 日～2024 年 8 月 9 日
【実施科目数】20
【回答率】32.1％

【結果の概要・分析】
全体の約3割の回答があり、自由記述にも学習に対する意欲が見られ、熱意ある学生が積極的に回答していることがうかがえた。

授業の意義や満足度、望ましさに関する質問への回答については、概ね肯定的（「3.どちらかといえばそう思う」「4.とてもそう思う」）との回答となっていた。特に設問 7「あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか」と設問 10「あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか」は 90％以上が「3.どちらかといえばそう思う」「4.とてもそう思う」と回答していた。このことから、シラバスの提示方法や授業内容等に対し、比較的高い評価がなされているといえる。

一方、設問 9「あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか」に対しては、回答した約半数の学生が「1.そう思わない」「2.あまりそう思わない」と回答していた。学習環境については大きな問題はないものの、自ら学ぶ姿勢については課題があることがわかった。

自由記述では教員の授業運営に関する創意工夫に対する感謝の記述が見受けられるとともに、一部の科目については改善を求める具体的な意見が記されており、よりよい学びを教員とともに作り上げようとする姿勢が見受けられた。

【授業改善への活用方法】
全体の評価としては概ね良好であるが、よりよい授業運営のため、アンケート結果を FD 研修会等で共有し、各項目の改善点について検討する予定である。
また、授業アンケートの回収率を改善するため、教員と学生への周知を徹底する等の取り組みの準備を開始している。

2024 年度前期授業アンケート報告書

現代社会学部

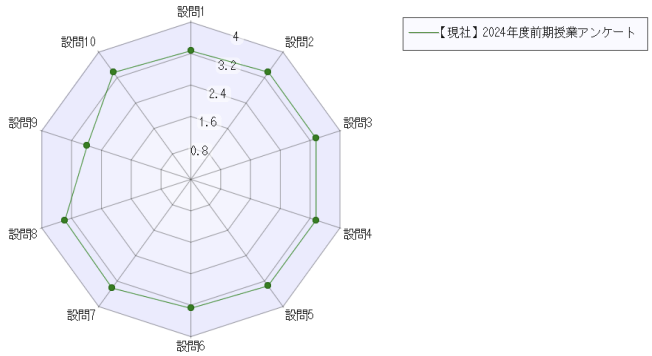
【実施期間】2024 年 7 月 1 日～2024 年 8 月 9 日
【実施科目数】91
【回答率】25.3%

【結果の概要・分析】

現代社会学部では、前期セメスターに開講された 91 科目を対象に、授業アンケートが実施された。今回のアンケートでは、5,443 人の履修者が対象となり、そのうち 1,377 人が回答した。回答率は 25.3%であり、これは大学全体の平均回答率である 30.1%よりやや低い結果となった。しかし、この低い回答率は、現代社会学部が実施した科目数や対象人数が他の学部と比べて多いためと推測される。

アンケートには 11 の設問があり、そのうち設問 1 から 10 は、授業内容や進行に関する具体的な評価を問うものだった。これらの設問に対する回答の傾向は、設問 9（予習復習についての設問）を除いてほぼ同じであった。

設問 11 は自由記述形式であり、学生が授業に関して自由に意見を述べることができる内容である。少ないながら自由解答記述からは、多くの学生が授業の内容に加えて、「楽しい雰囲気づくり」や「個別の配慮」を求めていることが読み取れる。つまり、単に知識を伝達するだけでなく、授業がリラックスした環境で行われることや、学生一人ひとりに対する理解とサポートが求められていることが示されている。また、学生の理解度やバックグラウンドの違いに応じた柔軟な対応が、授業において重要視されていることも浮き彫りになっている。



【授業改善への活用方法】

設問9（あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか）については、「全く当てはまらない」と「あまり当てはまらない」の比率が 40%となり、他の設問とは回答傾向が異なる。予習を前提としない授業が多いということもあるだろうが、課題（レポート）などを復習ととらえていないためではないだろうかと考えられる。課題提示の際に、授業のどの範囲にかかわる課題なのかを明示するなどの改善を行いうる。

設問 1（あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか）の回答結果は、全学集計と比較して「やや当てはまる」「よく当てはまる」の比率が高い。シラバスが履修計画を立てる際に活用されていることを示している。これまで通りシラバスの改善を継続していく。

また、教員は授業中にリラックスできる雰囲気を意識的に作り出すことが求められるが、インタラクティブな授業運営や柔軟な対応のためのツールの活用方法の研修も検討して良いだろう。

2024 年度前期授業アンケート報告書

グローバル・コミュニケーション学部

【実施期間】2024 年7月1日～2024 年 8 月 9 日
【実施科目数】54
【回答率】42.1%

【結果の概要・分析】

アンケート結果を見ると、全体的に授業に対する評価は非常に高いことがわかる。多くの設問で「よく当てはまる」「やや当てはまる」の回答が 80%以上を占めており、学生の満足度が高いことが伺える。

評価項目から

- シラバスの活用について

76%の学生がシラバスを読んでいると回答しており、授業選択の際にシラバスが活用されている。

- 授業内容の理解について

94%の学生が教員の説明がわかりやすかったと回答しており、授業内容の理解度が高いことがわかる。

- 学習環境について

93%の学生が適切な学習環境が提供されていたと感じている。

- 教員の工夫について

93%の学生が教員が授業内容を理解するための工夫をしていると感じている。

- 将来への有用性について

93%の学生が授業が将来役立つと感じており、授業の実践的な価値が認識されている。

それぞれの評価項目に関して、非常に高い満足度を示しており、授業の質が高く、学生のニーズに適切に対応していることがわかる。特に、授業内容の理解、学習環境、教員の工夫、将来への有用性の 4 項目で 93%以上の高評価を得ていることは、グローバル・コミュニケーション学部の教育内容が学生から支持されていることが伺える。 一方で、シラバスの活用については他の項目と比べてやや低い評価となっており、改善の余地があることを示している。シラバスの重要性や活用方法について、学生により明確に伝える必要がある。 これらの結果は、教育内容そのものが全体的に成功していることを示しているが、継続的な改善と学生のフィードバックへの対応が重要であることも示唆している。

自由記述から

自由記述からは、以下のような点が高く評価されていることがわかる。

- 実践的な内容（プレゼンテーション、グループワークなど）
- 教員の丁寧な説明と質問対応
- 多様な教材の活用（映画、ビデオ、パワーポイントなど）

- 実際の経験談や具体例の提示
- 学生の興味を引き出す工夫（クイズ、アクティビティなど）

一方で、改善点として以下のような意見も見られた。

- 授業スピードが速い
- 課題の量が多い
- 一部の学生のマナーの悪さ

学生は実践的で多様な学習方法、教員の熱心な指導、具体的で興味深い内容を高く評価している。一方で、授業ペース、課題量、学習環境（学生のマナー）に関する改善点も指摘されている。これらの意見を活用し、さらに効果的な学習環境を整備することで、学生の満足度と学習効果を高める必要性がある。

【授業改善への活用方法】

さらに強化（維持）する点
アンケート結果から、学生は実践的な内容、多様な教材の活用、教員の指導の工夫、授業の将来的な有用性等を高く評価していることがわかる。この強みを活かし、以下のような具体的な改善も検討できる。

- プレゼンテーションやグループワークの機会を維持する
- 学生が主体的に参加できるアクティブラーニングの手法をさらに積極的に取り入れる
- オンライン学習ツールやアプリケーションを活用し、学習の幅を広げる
- オフィスアワーの活用を促進し、個別の質問や相談の機会を増やす
- インターンシップや業界研究の機会を提供し、学習内容の実践的価値を体感させる

今後改善が必要な点
アンケート結果から、授業ペースの最適化、課題量の適正化、学習環境という改善点が見えてきた。これらの点については、学部教員と現状を共有するとともに、以下のような具体的な改善を検討したい。

- 各回の授業内容を見直し、重要事項により時間をかける
- 学生の理解度を確認しながら進める双方向型の授業を心がける
- 復習の時間を設け、学生が内容を消化する機会を増やす
- 課題の量と質のバランスを教員間で再検討する
- 入門ゼミ、履修指導、海外語学研修事前指導および企業インターンシップ事前指導など全体が集う場面でマナーについての指導、注意喚起を再度行う
- 必要に応じて、座席指定や小グループでの活動を取り入れる

以上

2024 年度前期授業アンケート報告書

総合リハビリテーション学部

【実施期間】2024 年 6 月 3 日～2024 年 8 月 9 日
【実施科目数】30
【回答率】33.2%

【結果の概要・分析】

教員に対する項目として、「シラバスに沿った授業の進め方であったか」、「授業内容を理解しやすくするための教員の説明」、「学習空間としてふさわしい環境の提供」、「授業内容を理解しやすくするための教員の工夫」、「学生の理解度を把握するための教員の努力」、において 9 割が当てはまるとの結果であった．また、学生自身のこととして、「授業を通して新しい知見や考え方を知ることができたか」、「授業に積極的、意欲的に参加したか」、「将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じたか」においても 9 割以上が当てはまるとの結果であった．しかし一方で、「予習・復習といった授業時間外学習を行なったか」については当てはまるが 6 割であった．

自由記述の意見では、肯定的な意見が多く見られた中、授業に対して改善や要望を求める記述が見られた．

〈肯定的な意見〉
・わかりやすいパワーポイントやレジメ
・実技や映像によるイメージや学びの深まり
・グループワークや個別に問う機会等を通して他者の意見を聞くことによる学び
・復習時間や復習的な小テストの実施による理解の定着
・様々な職種の話を聞くことでイメージがしやすかった

〈意見・要望等〉
・授業中、私語等でうるさい学生に対する注意（授業に集中できない）
・威圧的な注意の仕方や発言はやめてほしい
・テスト合格の得点率（合格ライン）が高い

【授業改善への活用方法】

・アンケート回答については、授業時に教員から声掛けをする、授業時間内に回答時間を設けるなどの対応を検討し回答率の向上に務める．
・科目担当教員がアンケートに目を通し、特に自由記述部分については参考意見として授業改善に努める．
・科目担当教員がアンケート結果のフィードバックを記入するよう、学部内で周知し、フィードバック回答率を高める。

2024 年度前期授業アンケート報告書

栄養学部

【実施期間】2024 年 6 月 3 日～2024 年 8 月 9 日
【実施科目数】 22
【回答率】78.3%

【結果の概要・分析】

今回の授業アンケートの実施に向けて、まず、2024 年 7 月 10 日（水）の教授会および事前メールにて、授業アンケートの該当教員全員に、第 14 回と第 15 回のいずれかの講義内で各科目の授業アンケートを行うよう依頼を徹底した。また、昨年度までの授業アンケート回答率が低かったことを踏まえ、今年度の講義内でのアンケートの実施は、FD 委員が事前に準備した授業アンケートに関するパワーポイントスライドを、講義の最初あるいは最後に提示し、5分間程度の時間を設けて授業アンケートに回答してもらうという統一した方法で行った。そして、アンケートの該当教員全員の協力により、今年度前期の栄養学部のアンケート回答率は 78.3%（1171/1496 回答）となり、昨年に比較して大幅な増加がみられた。

具体的なアンケート結果については、「あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか？」という設問以外は、すべて全学の平均を上回っており、特に「あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることはできましたか？」（3．46ポイント）と「あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか？」（3．53ポイント）という学生の成長につながる設問項目において高い評価を得た。また、多くの学生からの個別のコメントがあり、「勉強方法のきめ細やかな指導」、「小テストや中間テストの実施」、「丁寧でわかりやすいレジュメ」、「一方通行ではない対話形式の講義」、「国家試験に関連付けた講義」、「講義動画の配信」などに対する好評価の声が多数あった。一方で、講義によっては、教員の声の大きさや態度、講義の進行速度および難易度への不満の声が一部みられたため、こういった声もしっかり検証し、授業改善へつなげていきたい。

今回の授業評価アンケートは、例年に比較して多くの学生の意見が反映されたものであり、今後の授業改善につなげるための有益なアンケートとなったと思われる。

【授業改善への活用方法】

栄養学部では、今回のアンケートの全体の集計結果を教授会メンバー全員に周知するとともに、各科目の授業アンケート結果を担当教員が必ず閲覧し、学生に対する返信コメントをするようにメールあるいは教授会にて依頼を行っており、各科目の担当教員全員が、アンケート結果の検証を行い、後期以降の授業改善につなげるよう促している。

また、今回の授業アンケートの高い回答率により、本授業アンケートの意義と授業改善の重要性を教員が再認識するよい機会になったと思われる。後期の授業アンケートに向けて、前期授業アンケートへの協力に対する感謝と、授業アンケートへの回答の重要性をさらに詳細に学生に伝えていくことで、「回答率のさらなる向上」→「授業アンケートの重要性の向上」→「各教員の授業改善に対する意識の向上」へとつなげていき、授業改善のための好循環のPDCAサイクルの構築を目指したい。

2024 年度前期授業アンケート報告書

薬学部

【実施期間】2024 年 6 月 3 日～2024 年 8 月 9 日
【実施科目数】153
【回答率】16.8%

【結果の概要・分析】

全学部のアンケート集計結果と比較して、薬学部では「授業の進め方」「授業の分かりやすさ」「環境づくり」「理解への工夫」「学生の理解度の教員による把握」「新しい知見の獲得」などの項目において、ほぼ同等の評価が得られました。また、極端に低い評価が見られる項目はありませんでした。

一方、以下の 3 つの項目に関しては、薬学部の方が高い評価を得ていました（カッコ内は全学部の評価の平均値です）。

- 「この授業に積極的、意欲的に参加しましたか」：3.52（全学部平均 3.37）
- 「予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか」：3.25（全学部平均 2.93）
- 「将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか」：3.52（全学部平均 3.39）

授業に積極的・意欲的に参加したり、将来役に立つと感じている点で評価が高いことから、薬学部の教育手法が良好であると考えられ、良質な授業が多く提供されていると推察されます。また、6 年次に受験する国家試験に向けた学習準備が下級生のうちから始まっており、知識の定着を目的とした課題や小テストが多いため、授業時間外の学習が不可欠な状況であることがうかがえます。

薬学部独自の設問である「あなたにとって、授業の難易度は適切でしたか」については、評価が 3.27 でした。この内訳として、“レベルが高すぎる”と答えた学生が 5%、“範囲が広すぎる、情報が多すぎる”が 6%、“授業の進みが早すぎる”が 3%という結果が得られ、授業内容についていくのが難しいと感じている学生が一定数いることが考えられます。

さらに、授業の難易度に対する学生自身の対応として、“教員や友人に質問や相談を積極的に行う”4%、“専門書や参考書を積極的に活用する”2%、“勉強時間を 1 日のスケジュールに組み込む”3%、“課題や勉強の進捗状況を記録して振り返り、改善する”3%、“図書館など静かな環境で勉強する”2%といった回答が得られ、それぞれが工夫しながら対応している様子が見受けられました。

【授業改善への活用方法】

今回の授業アンケートの集計結果から、全体的に特に大きな問題は認められないと考えられます。しかし、回答率が低かった点については次年度以降に改善し、より多くの学生の意見を反映したアンケート集計を行うことで、より確度の高い分析を行う必要があると考えられます。

2024 年度前期授業アンケート報告書

共通教育センター／スポーツサイエンス・ユニット

【実施期間】 2024 年 7 月 1 日～2024 年 8 月 9 日
【実施科目数】 共通教育：809 ／ スポーツサイエンス・ユニット：14
【回答率】 共通教育：40.9% ／ スポーツサイエンス・ユニット：30.4%

【結果の概要・分析】

・共通教育科目

回答率は平均を大きく上回っており、実施科目数・履修者数の多さを考えると、高水準といってよい。ただし 40.9%という数値だけを見ると、向上させる余地は十分にある。

各設問の回答について、「設問 1」をのぞきすべての設問で平均値を上回っており、科目全体で全学の水準にあるといえる。回答率・回答の値ともに、この水準を維持できるのは各担当者の尽力によるところが大きい。

また、唯一全体平均を下回る設問 1 について、共通教育科目は語学・情報の授業が必修または履修必修になっている学部も多く、それらの科目については選択の自由が制限されるため、登録に際してシラバスを読む動機を弱めているものと思われる。

・スポーツサイエンス・ユニット

回答率はほぼ全学の平均と同じであり、本学の水準を反映しているものといえる。これも 30.4%という数値は当然改善の余地はある。

各設問の回答について、概ね水準にあるといえ、いくつかの設問で平均をわずかに下回る結果となった。「設問 5（理解するための工夫を感じたか）」・「設問 6（理解度を把握しようと努めていると感じたか）」で問われている教員の授業運営と、「設問 8（授業に積極的、意欲的に参加したか）」「設問 9（時間外学習を行ったか）」で問われている学生の学習態度がいずれも平均を下回っていることから、これを相関しているととらえることもできる。ただし回答者が比較的少数であることから、一人当たりの回答の影響が大きいことも考えられる。

【授業改善への活用方法】

共通教育科目はその性質上、科目数・履修者数は膨大であり、またスポーツサイエンス・ユニットを含めた全体では、授業形態（講義・演習）・1 クラス当たりの人数・授業の運営方法等は多岐にわたる。

そのため、このアンケート結果を授業改善へ活用するために、まず各分野主任がその分野の実態把握および情報共有に努め、それぞれにふさわしい改善を探ることが必要である。併せて、共通教育センター内では分野を超え、結果と課題を共有し、それぞれの分野における工夫が互いに生かせるよう議論する場を設けることで、共通教育およびスポーツサイエンス・ユニット科目全体の授業改善につなげる。